

木曾川町連区 第24号

地域づくり協議会だより

発行日：平成29年 1月1日 発行者：木曾川町連区地域づくり協議会
一宮市木曾川町内割田一の通り27（一宮市木曾川庁舎内） 電話：84-0005
メールアドレス k-chiki@orihime.ne.jp
ホームページ <http://138kisogawa.org>

**** 新年のご挨拶 ****
木曾川町連区地域づくり協議会 会長 光崎 邦雄

新年あけましておめでとうございます

木曾川町連区の皆様におかれましては希望に満ちた輝かしい初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。日頃は木曾川町連区地域づくり協議会にご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年末、地域づくりアンケート調査を皆様にご協力願いました。これからのまちづくりのあり方を具体的に検討するにあたり、日頃感じている現状や問題点など、今後のまちづくりの方向性などについてそれを活かしていくために実施いたしました。アンケート結果につきましては3月にご報告させていただく予定です。

少子高齢化の急速の発展や核家族化に伴う家族の介護力の低下など様々な要因により、これからの地域福祉のあり方が問われる時代になって来ました。こうしたことへの対応にあたっては、公的な支援だけでなく普段から地域の人たちと互いに支え合う地域づくりが大切です。

年老いた夫婦が互いを介護する、高齢の親を高齢の子供世代が介護するといったいわゆる老老介護が増えているのが現実です。また、高齢者運転の事故が相次ぎ、悲劇が繰り返されています。さらには、ポケモンGOにのめり込んでの死亡事故、ルールを守っている子供たちがルールを守らない大人たちの犠牲になる事はあってはならないことです。高齢者は視野が狭くなり、身体能力が落ちてきます。こうした事故の多発を防ぐために、関係団体による講習会を開催したいと思います。

昨年も大きな自然災害が続きました。特に活動期に入ったといわれる地震、火山噴火さらに風水害などは、列島各地に大きな被害をもたらしました。災害は予測ができず、止める事も押さえる事もできません。そして突然やってきます。防災訓練などにより、少しでも被害を少なくすることが最も大切な事と思えます。今年の防災訓練は、10月に木曾川西小学校で予定しています。多くの皆さまの参加をお願い致します。また、健康寿命への関心が高まっています。健康で長生きすることは全ての人の希望です。その実現のために、生涯、現役として自信と誇りをもって、多くの世代との交流を図っていくことが必要です。

本年も明るい地域社会づくりの実現のために、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

そして、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年の挨拶と致します。



社会福祉法人 きそがわ福祉会

きそがわ福祉会の発足は、昭和57年4月に障害者小規模授産施設「きそがわ共同作業所」を開設したことから始まりました。その後、10年間の小規模授産施設時代を経て、平成3年に社会福祉法人認可、翌4年に「きそがわ作業所」を社会福祉法人立として開設しました。

以後、様々な需要に応えるために、木曽川町および北方町を中心に新しい事業所が誕生し、現在では日中活動の場としての通所施設6か所・生活の場としてのグループホーム10か所・ヘルパー派遣事業所1か所・相談支援事業所1か所を持つ福祉会となっています。通所施設の合計利用者数は170名以上、グループホームの利用者は短期入所枠も含めて40名以上となっています。

日中施設の中には、下請け作業やボカシや廃油せっけんなどの自主製品づくりの他にも、木曽川病院近くでのカフェの運営や木曽川郵便局近くでのシイタケ作り、直産野菜・手作り製品等の店舗販売など、地域の方々との関わりも大切にしています。

行事等も行われており、各月の誕生日会や一泊もしくは日帰り旅行等、各施設ごとに趣向を凝らし企画し、利用者も楽しみにしている活動となっています。



旅行での1コマ

また、毎年6月には福祉会全体のバザーとして「ほのぼのまつり」を開催し、今年で24回を迎えました。福祉バザーや食べ物販売、利用者のステージ等様々な企画が行われ、私たちの活動を知っていただく機会として、毎年地域のたくさんの方々にご来場いただいています。

今後も利用者の皆さん1人ひとりが、日々を生き生きと暮らしていけるような事業を営んでいければと思っています。

ほのぼのまつりでの利用者のステージ

